敬愛（けいあい）

鶴は千年。亀は万年。我は天年。

仙崖（せんがい）

江戸時代後期の臨済宗の名僧、仙崖の言葉です。禅の境地を、わかりやすくユーモアあふれる詩文や書画に表現して多数の作品を残されました。

「鶴は千年。亀は万年。」という言葉は、どなたもご存じでしょう。鶴と亀を長寿の象徴として、縁起の良い言葉です。では、仙崖の説く『天年』とは、どういうことでしょう？

千年も万年も生きることを望むのではなく、自分は仏様から頂いた寿命を、仏様にお任せして生きるしかないのです。恐怖や不安に振り回されるのではなく、頂いた命に感謝し肝をすえ生きるという意味なのです。

発行／釈迦寺 布教課　千葉県船橋市小室町3394－3　0120(445)380　☎047(457)5400

やさしくわかる「禅語」のお話②

萬徳院釈迦寺
門主　竹田　明秀

「日日是好日」

これは中国の禅僧、雲門禅師の言われた有名なお言葉です。

意味は、直接訳せば「毎日毎日よき日である。」となりますが、雲門禅師は、「毎日毎日良い日だなぁ。」と感想を述べているわけではありません。「毎日毎日をよき日としなさい。」と呼びかけているのです。

私たちは生きている中で、良い日もあれば、嫌な日もあります。新婚カップルが、毎日がバラ色と感じていたとしても、一緒に暮らしているうちに夫婦喧嘩をすることもあるでしょう。人生一喜一憂しながら生きているのが普通です。それを、「毎日をよき日にせよ。」と言うのですから、並大抵のことではありません。では、毎日をよき日とするにはどうしたらよいのでしょうか。方法は二つあります。

一つは、宮沢賢治氏の有名な言葉にもあるように、「雨にも負けず。風にも負けず。雪にも夏の暑さにも負けぬ。」という、どんな苦しさにも負けないで生きていく強い精神力を持っていくという生き方。

二つ目は、堀口大学氏の詩にあるように、「雨の日は雨を愛そう。風の日は風を愛そう。晴れた日は散歩をしよう。」という、どんな状況も受け入れていくという生き方です。悪い日もよき日と受け取る心。さらには、悪い日をよき日へと転じる心があれば、どんな日であろうと「好日」となるのです。

どちらの生き方が好きかは、あなた次第です。

「魚化龍不改鱗」

今年は辰年ですので、龍の字の入った禅語を紹介します。

よく、「鯉の滝登り」といいまして、魚が三段の滝を登りきると昇天して龍になると言われています。しかし、この禅語は「魚龍と化すも鱗を改めず」つまり、魚が一生懸命三段の滝を登りきり、たとえ龍となったとしても、鱗は魚のままだということです。

どういうことかと申しますと、魚は龍となることを目標に一生懸命三段の滝を登りきりましたが、魚は龍となれたことで安心してしまったのです。

貧乏な人が大金持ちになることを、「成金」と揶揄することがありますが、その方が、貧しい方のために寄付を行ったり、様々な社会貢献を行えば、民衆のヒーローとなります。姿は龍でも心が魚のままではダメなのです。本当の目的を見失わず努力を続けたのならば、魚はおのずから龍となり、鱗は改まるのです。

合掌

ひとりごと

ご法事での出来事をお話しいたします。そのご法事は奥さまが施主で、ご主人さまの一周忌法要でした。ご主人さまが亡くなられて一年を向えますが、何か生活上で変化したことはありませんかとお尋ねしましたら、息子さまが答えてくださいました。「父の月命日には母と会うようにしています。父が亡くなったことは未だ悲しいことなのですが、これまで以上に母と話しをする時間が増えました。」とのこと。私は、亡くなられたご主人さまがご家族の皆さまに愛されていること改めて知り、大変うれしくなりました。その日のご法事は、ご主人さまへの感謝の心を込めて、一生懸命お経をあげ、ご供養させていただくことができました。秋も深まった、小雨の午後でした。

新入研修報告記

去る平成二十三年十月十七日～十九日、新人研修の一環として、竹田門主と新人僧侶三名にて京滋地方の諸寺巡拝に行って参りました。滋賀本院を拠点に当寺のルーツである園城寺（三井寺）をはじめ、比叡山延暦寺（東塔・西塔・横川）や圓満院門跡・東寺・清水寺・毘沙門堂・東西本願寺を参拝しました。

そのうち清水寺でのこと。ドイツのTV局が取材に訪れていました。ちょうど修学旅行生にインタビューをしている場面に出くわし、竹田門主にもマイクとカメラが向けられることになりました。

先方は震災後に参拝者が増えたのかどうか…？に関心があるようでした。確かにこのたびの震災は私たちの生き方や考え方に転換を促すものとも言えましょう。仏教者のなすべきことは大きいと申さねばなりません。

そのようなことどもを思いながら、最終日の十九日に滋賀本院にて月例法要を厳修し帰路についたのでした。

星祭り大法要を厳修いたしました

去る十二月八日、お釈迦様がお悟りを得られた「成道会」の尊き日に合わせ星祭りを厳修いたしました。皆様のこの一年の幸せをご祈願申し上げました。またご接待として「智証大師の大根炊き」を召し上がって頂きました。大勢のご参拝ありがとうございました。

合掌

読者の広場　それが知りたい仏事の色々

◎仏事その九
門松は冥土の旅の一里塚　めでたくもあり　めでたくもなし（一休）

新年早々ですが、冥土・死後の世界についてお話しいたします。

「和尚さん、**死後の世界・お浄土って、本当にあるのでしょうか。**」と、よく尋ねられます。いろいろと答えることはできますが、よく分かりませんというのが本音です。しかし私自身は、**お浄土はあると考えています。**なぜなら、私は、父母はいまお浄土で暮らしていらっしゃると願っているのですから。だから、死後の世界・お浄土の存在はあるかどうかではなく、あってほしいか、どうかと問われるべき問題なのです。

さらに一つ。お浄土に往けるかどうかは、閻魔さまが決めるのですか、との疑問。閻魔さまは五七日の守り本尊で、お地蔵さまと同体のほとけさまです。閻魔さまは浄頗梨の鏡をお持ちで、その鏡には、生前の善悪の行ないがすべて映しだされるといいます。私たちは本来、地獄行きが必定なのですが、閻魔さまは慈悲深いお方で、遺族の方々の願いを聞き入れてくださり、自らは判定を下さず、六七日、七七日と猶予を与えます。最後の七七日には、六つの鳥居があります。その六つとは地獄・餓鬼・畜生・人・天・阿修羅の六つの境遇に通じる鳥居なのですが、どれがどの世界に通じる鳥居なのかは分からないまま通らなければなりません。結局、**死後の世界は自分で決める**というのが正解なのです。そして、六つの境遇のいずれにも生まれかわることなく、**お浄土に往く場合も、自らの心からの願いによる**のです。私たちの願いは、必ずほとけさまに聞き入れてもらえます。だって、それがほとけさまの誓願なのですから。

春の彼岸会大法要のお知らせ

関東本院（船橋市小室町）
稲毛別院（ＪＲ稲毛駅近く）
船橋中央（船橋市高根町）

毎年春分の日に勤修しております彼岸会大法要を右記三ヶ寺にて行います。三ヶ所とも各々お参りの形式や各種行事が異なりますので、詳しくは別紙をご参照ください。

一山僧侶と参拝の皆様と共に追善の卒塔婆を前にお経をあげさせていただき、ご先祖様に喜んでいただきます。

多数のお越しをお待ち申し上げております。

合掌

花まつり（灌仏会）

平成24年4月8日(日)春分の日
小室大本堂にて
午前10時より

巡礼記

第4回目の秩父三十四観音巡礼の旅に行って参りました。今回はいよいよ結願です。5月12日(木)に第一回目を実施して以来半年の歳月を費やし、今日、最終の31番～34番までの四ヶ寺を巡って参りました。初回から強行軍の連続、タダタダ無事に・・・と観世音菩薩様の御加護を願い、祈りを奉げていよいよ満願。参加者全員が様々な願いを胸に秘め、観世音菩薩様の大慈大悲（だいじだいひ）におすがりし安らぎを求められた事と思います。

釈迦寺霊園が大人気

永遠の価値ある大寺院境内墓地釈迦寺霊園　船橋中央が昨年12月2日にオープンしました。ご見学の方々が連日たくさんお越しいただいております。

人気の理由

一、市営霊園などより永代使用料（永代供養料）が半額の40万円よりお求めいただけます。
二、寺院が運営する（永遠に継続します）境内墓地です。
三、管理・設備の行き届いた現代寺院であることです。
四、僧侶が毎日、読経供養をあげていることなどです。

皆様お誘い合わせのうえお早めにお越しくださいませ。

釈迦寺霊園　船橋中央

先着順にて受付しておりますので
お早めにお越し下さいませ。
詳しくはフリーダイヤル**0120・646・100**
まで、お問合せ下さいませ。

坐禅会・写経会のご案内

小室・稲毛同日開催

●**1月17日(火)**　●**2月21日(火)**
●**3月13日(火)**

◎**坐禅会**（参加費　無料）
●午前8時より
～日々の雑踏から離れ
無音の中に安らぎを求める～
★イスを使った「らくらく坐禅」もあります。

◎**写経会**（納経代　お一人様千円）
●午前9時より
～仏様の教えを全身でいただく～
★お気軽にご参加ください。
★写仏のコースもございます。

月例行事のご案内

◎**月例法要**（ご供養お布施五千円）
故人様、ご先祖様追善のご法要と導師による法話がございます。

●**1月15日(日)**　●**2月19日(日)**
小室大本堂　**午後2時より**
●**1月8日(日)**　●**2月12日(日)**
稲毛大本堂　**午後2時より**